



高蔵寺ニュータウンは開発から50年近くが経ち、社会の変化と共にまちも変わりつつある。だが、バリアフリーやノーマライゼーションに対する理解が行き渡ったとは言えず、身体障害者や知的障害者、精神障害者ら、ハンディキャッパーに対する偏見や理解の無さは依然として残っている。こうしたハンディキャッパーが自ら集まり、社会と交わりながら楽しく住めるグループホームを石尾台（対象地域B）で提案する。

1. バリアフリーの徹底

外から玄関まではスロープで来れ、玄関から先の室内も段差がないので、車イスでもそのまま入れる。新たに設けた住宅用のエレベーターで車イスでも1階と2階の行き来が楽にできる。室内のすべてのドアは開戸で車イスに優しく、脱衣・洗濯室と浴室のドアは3枚開きで、車イスでも楽に入れる。

2. 温熱環境の向上

バルコニーにサンデッキを新たに設け、窓の開け閉めで夏は涼しく、冬は暖かく、温熱環境をUPできる。またこれにより2階にも半屋外のリビングが増え、ゆとり度がUPする。（脱衣・洗濯室で洗濯した物は浴室越しにサンデッキで干せる）引戸で各部屋は小さく仕切れることも可能で、温熱環境を損なわずにすむ。



3. 改修で新しく加えた部分

バリアフリーを徹底させるため、玄関までのアプローチにスロープを加え、室内の段差もすべて無くした。2階へも車イスで行けるよう、住宅用エレベーターを加えた。温熱環境を向上させるため、バルコニーにガラス張りのサンデッキを加えた。



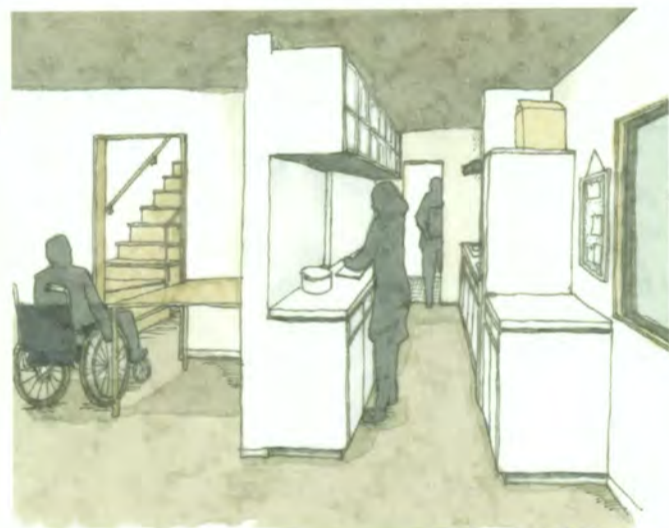
トイレ1: 車イスにも対応できるゆったりトイレ
 ルーム1: ウォークインクロゼットのあるゆったりした個室



洗面1: ルーム1の人や1階を利用する人々が使用する洗面コーナー



玄関ホール: 玄関前で泥を落とし中へ入る。床の段差は無い。靴箱は階段下にある。



キッチン: 玄関側の引戸を開けると直接ゴミや買物が出し入れでき、回遊性も生まれる



洗面2: ルーム2の人や2階を利用する人々が使用する洗面コーナー
 ルーム2: ウォークインクロゼットのあるゆったりした個室



脱衣・洗濯室: 車イスの人が浴室に入る時に楽に衣服が脱げるスペース。洗濯機と掃除用の流しがあり、東の窓で明るい。
 浴室: 3枚開きの引戸で車イスでも楽に入れる浴室。そのままサンデッキで夕涼みもできる

2階ホール: 家庭用エレベーター前のゆったりしたスペース。脱衣・洗濯室の乳白のドアからの光で明るい

洗面3: ルーム3の人や2階を利用する人々が使用する洗面コーナー



サンデッキ: バルコニーに新たに設けた半屋外スペースで、窓の開け閉めで夏は涼しく、冬は暖かく、温熱環境をUPできる。

ルーム3: サンデッキに出やすい位置にある個室

アプローチ: スロープでスムーズに玄関まで行くことができる。



4. 改修費の概算内訳 (右図参照)

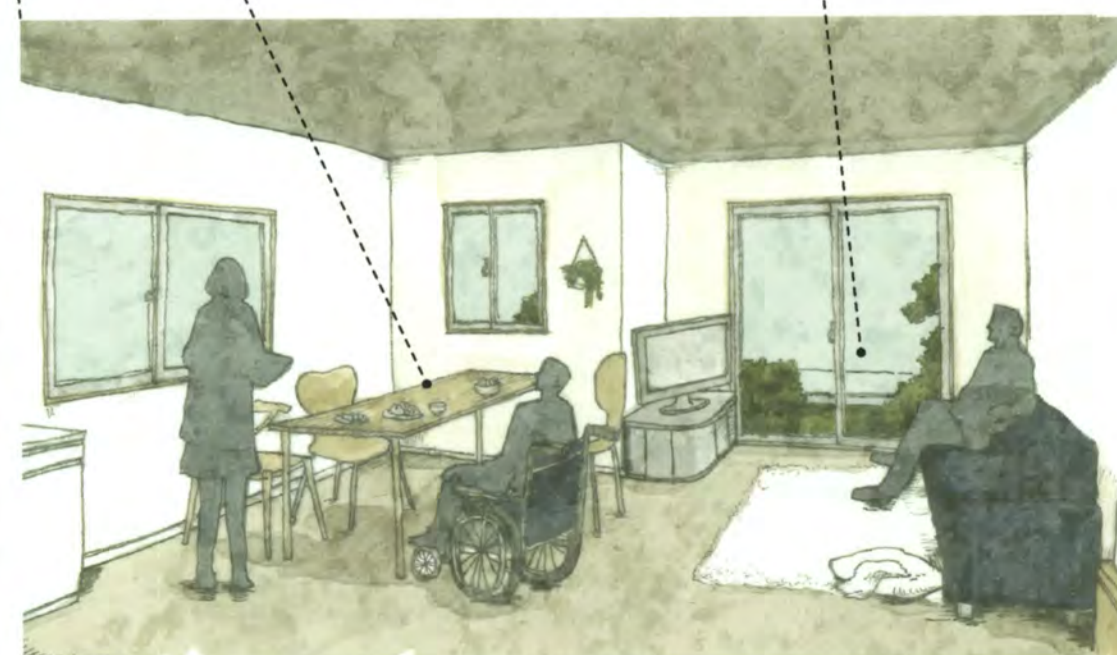
この改修は一般住宅を身体障害者や知的障害者、精神障害者のグループホームとして社会福祉施設化するもので、国や都道府県、指定都市、中核市からの補助金や、独立行政法人福祉医療機構からの低利の融資を受けられることで、利用者に負担を強いることなく、改修をおこなうことはできる。また、土地や建物の所有者はそれらを出し供もしくは利用させることで毎月一定の金額を得ることができる。

5. 改修+まち+人

こうした改修例が増えてやがて点から面になり、まちに広がっていくことで、障害者同志だけでなく、障害者と成人、若者、子供のふれあいが増え、施設の運営を支えて行く強固な仕組みができる。高蔵寺ニュータウンの最も優れた資産は人である。

工事名	金額
仮設工事	550,000
解体工事	948,730
基礎工事	292,000
鉄骨工事	400,000
木工事	1,894,535
防水工事	68,500
金属建具工事	440,000
木製建具工事	378,000
左官工事	478,100
塗装工事	90,000
内装工事	769,350
家具工事	100,000
設備機器	1,805,000
EV工事	2,040,000
防災設備工事	300,000
給排水設備工事	300,000
電気設備工事	550,000
諸経費	912,400
値引	-16,615
小計	12,300,000

ダイニング: 東の窓から光と外の光景が望めるダイニング



リビング: 住む人と外からやって来る人とが交わるスペース。コンパクトだが開放的で広く見える

